

Ⅲ 望ましい指導の在り方

1 運動部活動の運営

(1) 指導体制の確立

運動部活動は、生徒の心身の健全な育成と豊かな人間形成を図る上で、極めて重要な教育活動であり、生涯スポーツの基礎を培う活動としても重要である。

学校では、教育目標の具現化を図る視点で校務分掌に適切に位置付け、活動目標等を明確にしていくことが大切である。

(2) 顧問の役割

運動部活動は、学級や学年を離れ、生徒と密接に交流できる重要な場である。

日々の運動部活動において生徒と一緒に汗を流し、話し合い、励まし合い、高め合っていくことで、担任や保護者にはできない

触れ合いが顧問ならできるなど、授業とは異なる人間関係や生徒理解を深めることができる。また、卒業生が何年たっても顧問を慕って交流を続けているという話もある。

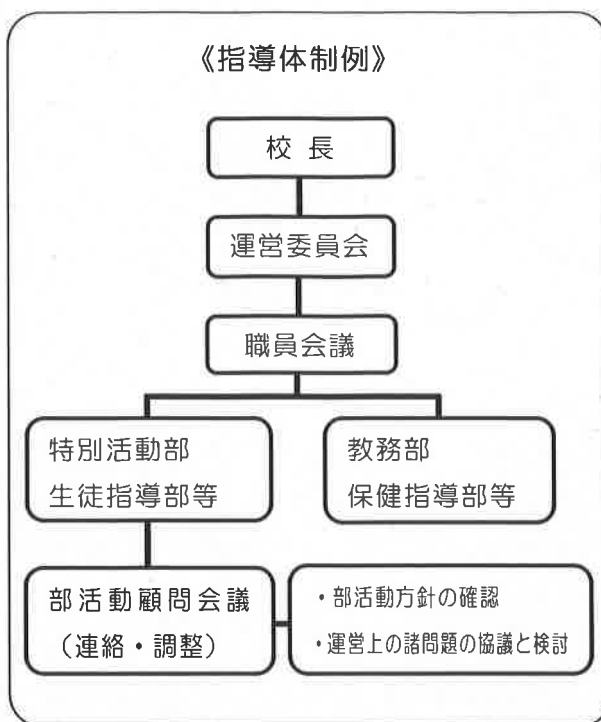
このような運動部活動を通して、日々成長していく生徒の充実感あふれる姿に直接触れることができることは、何物にも代えがたい喜びである。

具体的な活動場面では、顧問が最初から最後まで指導することが基本であるが、状況によっては、5分でも10分でも指導し、生徒にその日の活動内容や注意事項を的確に指示し、励ましの声をかけてやるだけでも生徒は喜んで自主的に活動する。また、指導していく上で分からないことがあれば、その都度身近にいる同じ学校の教員に相談したり、同じ種目を指導している他校の顧問や競技団体の関係者などと積極的に交流したりして指導力を高めていくこともよい。

一方、最近はスポーツの専門書が数多く出版されている。顧問自ら専門書をひも解きながら、指導力を高めていく努力も大切であり、その積極的な姿勢が生徒に及ぼす影響には計り知れないものがある。また、生徒同士がお互いに教え合い、学び合うシステムづくりも大切である。専門書などを通して練習の仕方や指導法についてある程度の力量を生徒が身に付けていくことは、生涯スポーツ社会における部活動の大切なねらいの一つでもある。

《顧問の役割例》

- 年間活動等の計画の作成
- 施設・用具の管理と指導
- 部予算の確保と管理
- 部員名簿の作成
- 部員の健康管理
- 実技指導
- 部活動日誌等の活用と整理
- 広報活動（部活動通信等）
- 部会の開催・運営
- 顧問会議への出席
- 部員の事故防止と安全指導
- 保健室や医療機関との連携
- 保護者会との連携
- 地域団体との連携



2 望ましい指導の在り方についての配慮事項

運動部活動の望ましい指導の在り方については、次のような事項について配慮することが大切である。

(1)生徒の安全確保(事故防止)

学校における教育活動が、安全かつ効果的に行われるためには、安全指導と安全管理の両面から教師に注意義務が求められる。

運動部活動の指導にあたっては、安全を最優先課題としてとらえ、事故防止には万全を期さなければならない。

また、生徒自身が危険を予知し、克服する能力と態度を身につけるよう指導することも大切である。(詳細は「運動部活動における事故防止」参照)

《安全指導・安全管理のポイント》

◆安全指導の充実

- ・自己管理能力の育成
- ・危険予測・危険回避能力の育成

◆安全管理の徹底

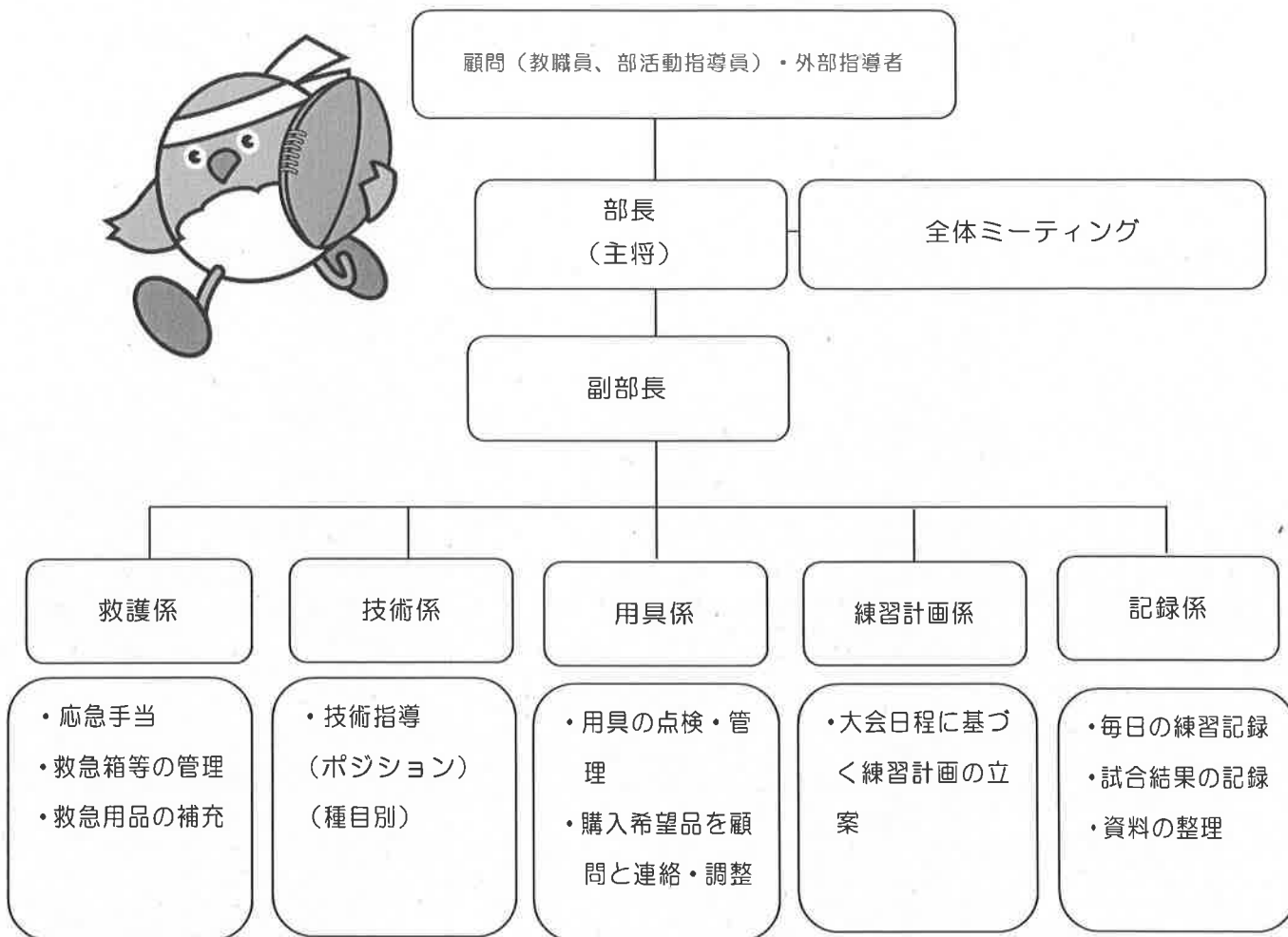
- ・緊急時の連絡体制の確立
- ・生徒の健康管理
- ・スポーツ障害の予防
- ・休養日の設定
- ・適切な練習時間・練習量の設定
- ・安全にできる服装・用具の確認
- ・施設設備の整理整頓
- ・定期点検の実施
- ・練習場の広さ、衛生面の配慮 等



(2) 自主的・自発的な運営

生徒が積極的に運動部活動に参加し、楽しく継続的に活動できるようにするために、計画、実践、評価のすべてに生徒が参加できるようにするとともに、一人一役、役割分担等に配慮し、生徒一人一人が意欲的に取り組めるような自主的・自発的な運営が大切である。

《活動組織の例》



《リーダーの位置付けと役割》

- 部全体のまとめ・・・チームワークの醸成・副部長、各係長との連携
- 練習計画と実践・・・練習計画の作成、確認、反省・出欠確認、健康観察、安全配慮・ミーティングの実施
- 他の部（長）との連携・・・部長会議への参加
- 良好な人間関係の確立・・・部員の悩み等の相談
- 試合等の結果報告・・・試合の反省、課題の設定



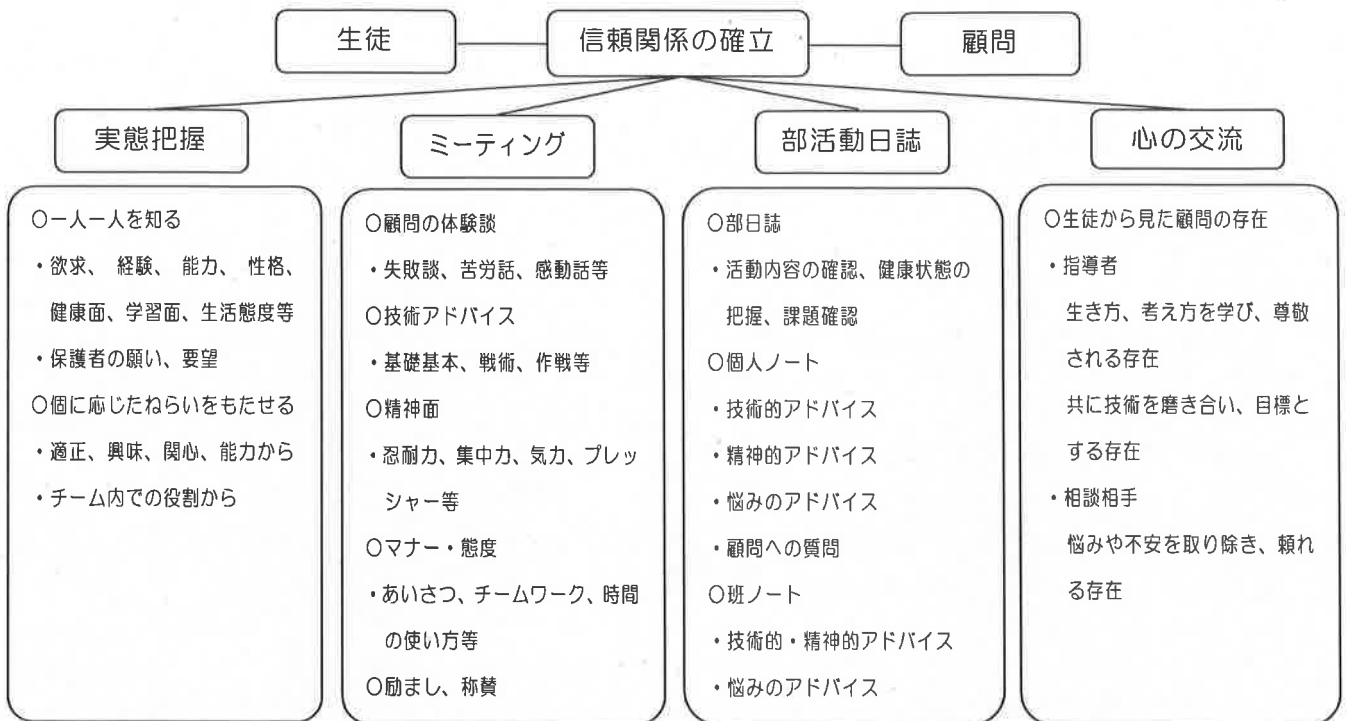
(3)好ましい人間関係の育成

好ましい人間関係を育成することは、運動部活動の運営を円滑にする上で大変重要なことである。

《生徒と顧問のかかわり》

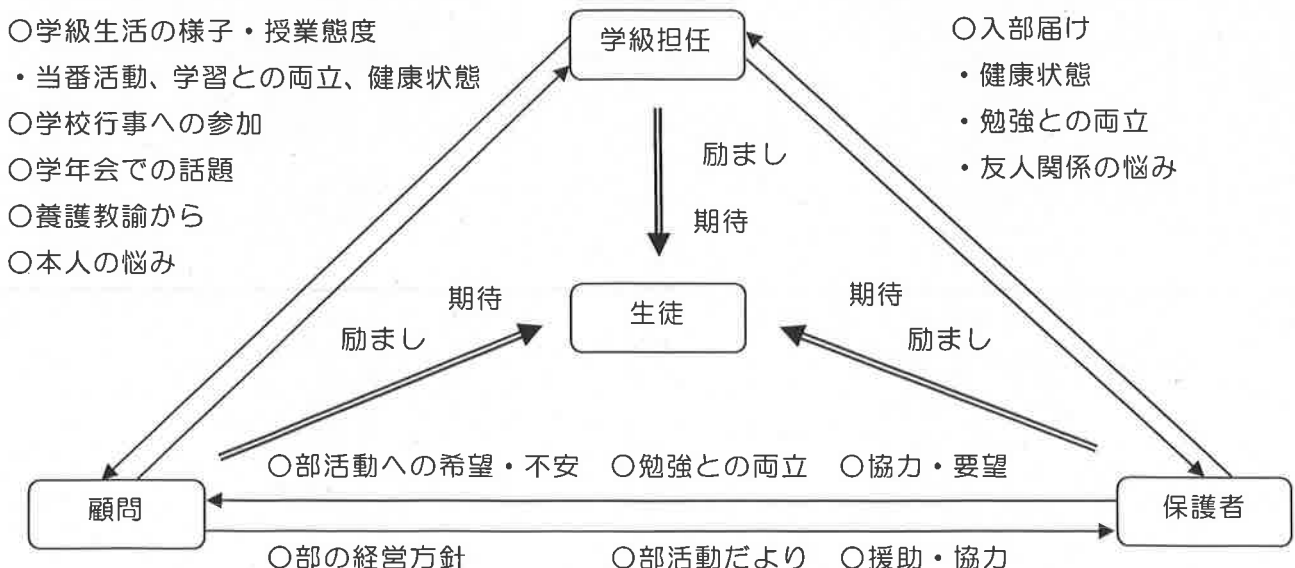
運動部活動において顧問（教職員、部活動指導員）・外部指導者の指導は、生徒の取組に大きく影響し、その成果を左右するものである。

指導に当たっては、下の図のような場や機会をとらえて、きめ細かにかかわり合っていくことが望ましい。



《生徒をとりまく環境とのかかわり》

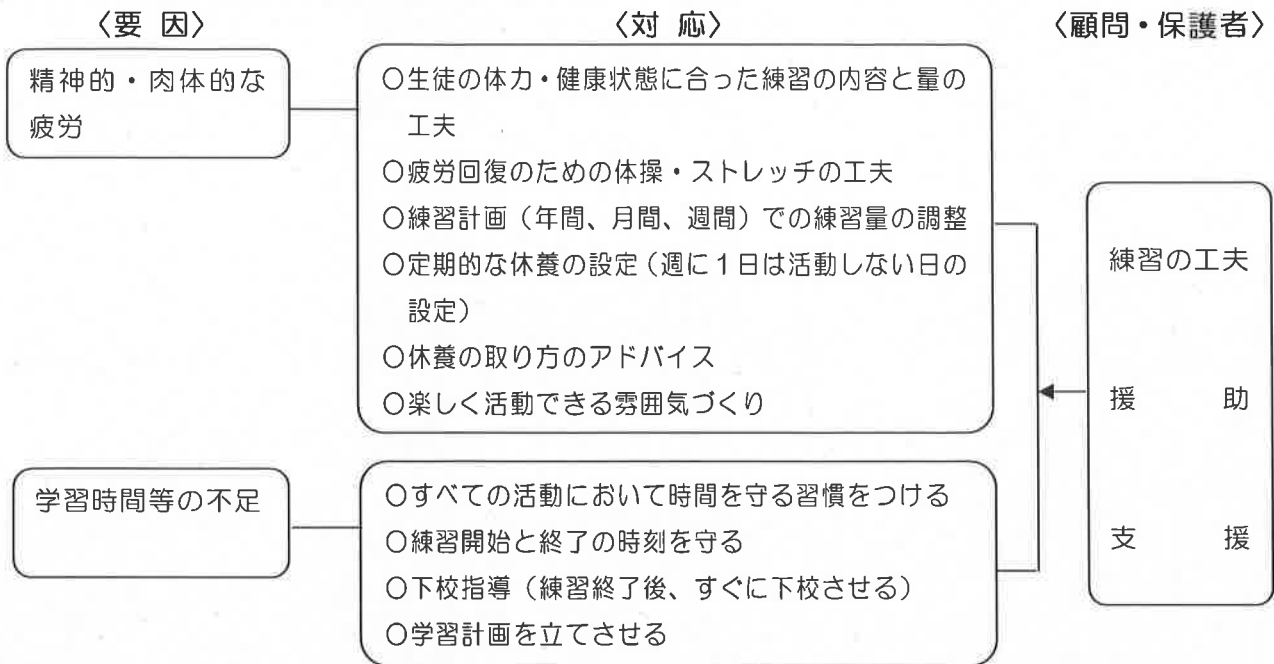
運動部活動に関わる諸問題を解決するに当たっては、生徒をとりまく諸環境に働きかけていくことが大切である。



(4)運動部活動と学習の両立

運動部活動と学習の両立については、多くの生徒が悩み、その解決について努力している。両立のためには、生徒の実態を踏まえた練習を計画し、短時間で効果の上がる方法等を工夫するなどして学習時間の確保に努めることが大切である。

〈両立を阻害する要因と対応〉



(5)科学的・合理的な練習方法の工夫

選手やチームの育成を図るためには、部員の体力の向上を図るためのトレーニング論、技術、戦術を向上させる専門的指導技術、医・科学に関する知識が必要となる。

学校における運動部活動は、生徒の身体的な発育・発達や活動の意識を踏まえて運営されなければならない。

このような視点から、練習計画の立案やシステムの開発は大切である。

専門的な指導者が不足している状況下においては、地域における専門的な知識や技術を有した指導者の活用を図りながら効率的な練習を展開していくことが重要である。

過熱指導	勝利至上主義や極端な精神主義に基づいた指導のことで、旧体質の運営による非民主的な上下関係や閉鎖性、顧問による体罰、しごき、部の私物化等、社会的な非難や誤解を招く状態も生まれやすい。
バーンアウト	「燃えつき症候群」などと言われている部活動への取組の一つで、すべてを投げ打ち一時期に没頭し過ぎるあまり、上級学年や上級の学校へ行ってからも部活動を続けようとする意欲がなくなってしまうこと。
ドロップアウト	「離脱」とも言われ、過熱した活動、体力技術的限界や疲労の蓄積、学業成績の低下、スポーツ観・価値観の相違、教師や部員間の人間関係上のトラブル、親の反対等を理由に所属していた部をやめること。
トランスファー	「転部」や「移籍」とも言われ、志向の変化や新しい価値観の芽生え、新しい友や仲間の出現、新たな適性の発見等により、所属した部を離れ、他の運動部や文化部へ移ること。

(6)その他

■マクルランド理論(成功率とモチベーション)

ハーバード大学のマクルランド博士が行った輪投げの実験がある。学生をいくつかのグループに分け、各グループに異なる距離から輪投げをさせた。学生たちの表情や視線などから、彼らのやる気を測れるようにし、どのグループが最もやる気を高めることができたかを考察した。

実験の結果、最もやる気が高まったのは、5回投げて3回成功する距離、つまり成功率60%で輪投げをしたグループだった。達成可能性は半々よりやや上ぐらいの課題を与えられたとき、人間は最もモチベーションが高まることが分かった。

(児玉光雄著『なぜモチベーションが上がらないのか』ソフトバンク新書より)

■指導者の心構え・視点(コーチングの基本的な理論)

- 傾聴(最後まで耳を傾ける→否定せず受け入れる→生徒の安心感→信頼関係)
- 一方通行(教える) ⇔ 双方向(ともに考える)
- 叱る、押さえつける ⇔ ほめる、引き出す、伸ばす
- やらされる、つまらない経験 ⇔ やりたくなる、好きになる、楽しい経験
- 結果管理(怒鳴られる→怖い→消極的) ⇔ 経過管理(ほめられる→うれしさ→自主的)
- 指示命令型(指示待ち人間、イエスマン) ⇔ 質問提案型(傾聴→ほめる→能動的)
- 答えを言う ⇔ 考えさせる(どう考える、どう動く?)、選ばせる(どっちがいい?)

PATROLLしよう!!

- Process 「結果ではなく、経過を重視しましょう」
- Acknowledgment 「承認しましょう」
- Together 「一緒に楽しみ、一緒に考えましょう」
- Respect 「尊敬しましょう、尊重しましょう」
- Observation 「よく観察しましょう」
- Listening 「話をよく聴きましょう」



(日本スポーツ協会『スポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員養成テキスト』より)